

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語					
登場人物やキーワードを基に文章を読ませることで、おおまかなあらすじを捉えられるようにする。また、内容理解の手助けになるよう、挿絵を積極的に活用する。	自分の経験や体験を結び付けて考え、記述する力を身に付けさせる。 文章の中の重要な言葉や文を考えて、選び出す力を身に付けさせる。内容を短くまとめ直す力を付けさせる。	はじめ、中、終わり等のまとまりや場面の移り変わり、気持ちの変化を意識しながら読み、必要な言葉を取捨選択し、自分の言葉で要約する力を身に付けさせる。その際、心情曲線図等を活用する。	話題や繰り返し出てくる言葉に注目することで、文章の中心となる語や文を押さえながら読み、「筆者の考え」を中心に、必要な言葉を選択しながら要約する力を身に付けさせる。	物語文や説明文の学習では、場面や段落ごとに小見出しを付ける活動を通して、文章中の中心となる語や文をキーワードとして活用し、要約する力を身に付けさせる。	キーワードや文章の構成をもとに、筆者の考えを理解する。筆者の立場や考えを捉え、必要な説明や言葉を補って、要旨をまとめる力を身に付けさせる。
算数					
具体物（ブロック等）を操作しながら問題に繰り返し取り組み、問題場面をイメージする力を身に付けさせる。	問題場面を想像しやすくするため、挿絵やテープ図で場面を押さえる習慣を身に付けさせる。 その習慣を生かし、問題文の中にある数学的な言葉に気付き、式の意味を考えて、自分でテープ図を書ける力を付けさせる。	問題文の内容を捉えやすくするため、線分図や数直線の書き方の指導を行い、式の意味を考え、式の意味を捉える力を身に付けさせる。	問題文の内容を絵や図などを用いて「見える化」したり、式の意味を考えたりすることで、問題文の状況を正しく想像する力を身に付けさせる。また、線分図や数直線図に表す力を身に付けさせる。計算問題に繰り返し取り組み、計算力を向上させる。	文章問題から立式する場面では、図や表、言葉など多様な表現ができることを確認しながら式の意味を考えさせ、正確に立式できる力を身に付けさせる。	問題を理解して数直線図などの図を自分で描く力を身に付けさせる。また、その図を基に立式し、式の意味を説明する力を身に付けさせる。既習を確かめ、おおよその答えを検討しながら学習を進める。